

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>開所より、地域との連携の中で心から語り助け合い、共に喜びあえることを理念としてきました。理念はホーム内に掲示し、利用時説明文書・パンフレットに明記、見学者、入居に際して本人、家族に説明している。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>管理者、職員は理念を理解し、ケアの目標として、日々の生活支援に取り組み、理念の実現に向けて努力している。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ご家族に向けて毎月発行のサンだより、行事や訪問頂く機会を通し折々のホームの姿をご覧いただけます。研修生の受け入れ、オープンガーデン、施設の一部を地域の方に有効に使っていただく等「家族、地域の方々と共に」の理念がご理解いただけるよう取り組んでいる。</p>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>ご近所、隣の併設施設の方とは、利用者や職員も顔なじみになり庭や散歩に出ていると声を掛け合い、作物や花の話題からおすそ分けもあり、収穫の手伝いをしたりして楽しい交流のひと時を過ごしている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の一員として文化祭等の公民館活動の参加、また施設の一部を行事や緊急時に地域の方々に使って頂いたり、地域住民始め多くの方々に参加頂いてのサン祭りを開催する等、地域の人々との交流に取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>利用者の年齢、介護度が上がる事で地域への参加が困難となってきましたが、地域の一員として交流する機会を持ち続けられるよう取り組みたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域住民の集まりに出向き高齢者の生活や介護の相談にのっている。施設も見ていただいている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7 評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は毎年全員が行い、自分を省み、取り組むべき姿を学び、意識あわせの機会となっている。結果は会議で報告、改善点には前向きに取り組んできた。その結果、利用者の安全、業務の明瞭が図られサービスの向上に繋がっている。昨年の結果は10月の運営推進会議で報告している。		
8 運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	出席者は行事へ参加頂く機会を持ち、生活の様子を実際に見てもらい意見を出していただいている。そこの意見を受け止め、また、励みにサービスの向上へと繋げている。		
9 市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入退所やその後の様子、認定調査の機械を通じ、主には生活課題について、相談させて頂き解決に向けている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は外部研修に参加し、制度の理解に努めている。活用出来るまでには至っていないが、制度利用が過去にあり、ホーム全体で支援に努めた。		
11 虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人権を大切にすることを理念としている。ご家族、スタッフに虐待は見られない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職後も出来る範囲で協力頂くよう依頼し、数名の方が有料ボランティアとしてなじみの関係を続けて頂いている。		
<b>5.人材の育成と支援</b>			
19 職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	参加出来る研修を紹介し、出席を勧め、研修報告をスタッフ会議にて行い、研修内容を全員で共有している。講師によるホーム研修・ホーム間スタッフ交流などの機会を設けて向上を図っている。	○	今後も人材育成の重要性を鑑み取組んでいく。
20 同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は近隣のグループホーム管理者と交流の機会があり、意見を交換している。善光寺平グループホームネットに参加交流している。	○	研修会への参加を勧め、向上に向けていく。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は日頃から職員と話す時間を持ち、職員の相談を受け止めている。暑気払い・忘年会・バーベキューも気晴らしの機会となっている。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修会参加や改善個所などスタッフ会議等で前向きな意見を取り入れ向上心を持ち働く職場となっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前、家を訪問し、生活環境の確認をし、顔なじみの関係作りに心掛けたり、本人の状況に応じて体験に来所頂き、利用者・職員とお茶を飲んだり、話を聴く中で本人の考え・思いを受け止めて、受け入れる体制を整え、安心して利用頂けるよう取り組んでいる。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前にご家族の状況、思いをしっかりと受け止めることがその後のケアに大切であることは職員全員が理解し、その努力をしている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族の要望を見極め、ホームの出来ることを紹介し、話し合う中で、必要なサービスを見極め、要望時は地域の事業所へ連絡、また紹介をしている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>体験来所を願い、お茶や食事、レク活動を通して利用者や職員と交流を持ちながらホームの雰囲気触れて頂く機会を提案、実施している。体験入所も設定している。</p>	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者と職員は共に過ごして年月の中で、「共に過ごし、学び、支えあう」関係が築かれ、日々喜怒哀楽を分かち合い、一緒に過ごす時間を楽しみ、又それが大切であることを認識している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と心を寄せ合いお互いに支えあうことがどんなに大切かを、理解しており、家族に協力を求めている。	○	職員は家族の思いを大切にし、サービス計画にもその思いが取り入れられるように理解と協力を求めていく。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族のこれまでの関係を踏まえつつ、今後のよりよい関係作りに向け、本人の生活の様子、家族への思いを伝えている。常に話し合い、連携して取り組んでいる。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人との付き合いや馴染みの場所等へ外出は、出来る限り希望に添った支援をしている。馴染みの理髪店に通う人、年に一度の善光寺参りをしています。		
31 利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は利用者同士の関係の把握に努め、気持ちよく係わり合い、支え合えるよう、折々の場面で工夫配慮に努めている。		
32 関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者から要望があった時には再会の機会を持ち、また退所した後の訪問を受け入れたり変に喜ばれている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は本人本位の生活がどれだけ穏やかな時間を取り戻せるか理解できている。本人・家族との関わり中で、思いや意向の把握に取り組んでいる。</p>	○	<p>センター方式シートの活用を充実させ、本人の思い意向を把握していきたい。チームカンファレンスに生かし、より良いケアに生かしていけるようにする。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前の訪問で家庭での生活の様子、家族との関係等知る機会を得ている。個々の歴史やサービス利用経過について、出来るだけ情報を頂くよう努めている。日々の暮らしで本人から教えて頂くこともある。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>開所以来、見守り待つことで、出来ることの継続に努めている。一人一人がそれぞれの生活リズムを持って生活されていることを理解、その流れを大切にしている。</p>	○	<p>年々高齢、認知が進む現状の中においても言葉や行動を大事に受け止め、残されている力を見出す努力をしていきたい。</p>
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>可能な限り本人の希望を取り入れながら、家族の意見を交えて、本人本位の計画を心がけている。グループにて、担当者を決め、グループカンファレンスし、ケア会議で更に検討しケアプランに反映している。</p>		
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>見直しは、1ヶ月に1度グループカンファ、ケア会議で検討し、状態に応じて必要時計画の見直しをしている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は勤務職員全員が担当個所・気付き・連絡等を漏れのないよう記載するように努力している。評価後の指導で見易い工夫もできている。	○	利用者の行動、言葉を受け止め、それに対する職員の気付きや工夫した事はケア記録に残し、ケアに生かす。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人と家族の状況・要望に向き合い、職員は努力して本人本位の生活支援に柔軟に対応している。健康面については、看護師が家族と連携し職員を指導して早期対応に努めている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	多方面に渡る地域機関の協力を得て、健康で安全な生活支援に取り組んでいる。健康面では、病院の地域連携室と連携が図られている。	○	今後も健康で安全な生活支援のため、地域機関との連携を図る。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人と家族の状況・意向に添い地域のケアマネ・医療担当者と話し合いを持ち、方向性を見出している。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	調査や入退所の連絡を通して、相談や指導をいただいている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は本人・家族が指定、受診に出向き心身状況を把握頂いている。その他状況に応じ本人・家族の意向に添った医療支援を図っている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地域の認知症専門医に協力を依頼している。受診・生活指導を頂いている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤看護師が職員を指導し、健康管理・医療的な支援に当たっている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は病院の指示・家族の意向に出来るだけ添い支援している。早期退院も、病院側の情報の下（地域連携室と連携）体制を整え受け入れている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期の支援は重要事項に明記、本人と家族の状況・要望に添って家族・主治医と連携を図り、出来る限り取組んでいる。一連の状況・対応策は全員で共有し気持ちを一つにして取組んでいる。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化への支援を経験し、その際ホームの持てる力を家族に明示、主治医の意見も聴き、3者が本人にとっての最善策が何かを話し合い、職員は力を合わせて支援している。	○	利用者の状況に合わせ、検討や学習を重ね、職員の不安も取り除くことが出来るように、備えていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退所時は今後も継続性に配慮して頂けるよう、移り住む先の関係者にホームでの生活・心身状況・意向等を書面で伝えている。又家族にも伝えている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1.その人らしい暮らしの支援</b>			
(1)一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護については、研修報告や会議の中で事例を挙げ学んでいる。職員は尊厳・権利の遵守を常に念頭におき、お互いに注意しあいながら業務についている。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	言葉以外の反応からも、本人の希望や好みの把握に努めている。諸々の状況を考慮しながら自己決定の場面を遵守している。		
52 日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の暮らしに流れはあるが、日々の1人1人のペースを見守り、要望や状況に合わせた支援に取り組んでいる。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみは場合によってはアドバイスをしながら、支障が無い限り、本人の決定に任せている。家族の意向もあり、馴染みの理髪店に出向いているケースがある他、理美容はボランティア美容師にお願いしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲で、野菜の下ごしらえ、配膳、テーブル拭きを日課としている利用者もあり、職員は感謝の気持ちを伝えている。		
55 本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	要望に応じて、可能な限り取り入れ喜んでいただくようにしている。お酒やたばこを希望される利用者はいないが、行事にはお酒も提供している。		
56 気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンの変化に追いつけない状況が増えてきており、失敗も多くあるが、トイレ誘導を日常的に行いトイレでの排泄を支援している。		
57 入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴を楽しむ人、気分が入る人、早く入りたい人、遅い方がいい人等思い思いに入浴を楽しんでいる。		
58 安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりのパターンで休憩が取れている。夜間熟睡できない利用者には、日中の休憩をすすめている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事がモップ掛けに、食事作りがテーブル拭きにと出来ることが変化してきているが、やる時は生き生きと行き、「あんたそれやるんかい？私やってやるよ」「買い物に行くの？ついて行ってやってもいいよ」など明るい声がかかっている。気晴らしも一人ひとり出来る支援に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60 お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はお金の自己管理はありません。		
61 日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や希望・状態を見ながらテラスでのお茶飲み、散歩、買い物、ドライブなどに出かけている。事前に計画を立て季節」に触れる楽しみな外出もある。家族の協力、ボランティアの皆さんの協力を得、心身状況に合わせて対応に努めている。		
62 普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間計画に取り入れ、体調に合わせて、四季折々に外出の機会を持っている。墓参りは家族の協力もあり、実施できている。		
63 電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望ある時には、電話の支援に当たっている。電話でのやり取りができるように家人にも強力を求めている。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や珍しく訪ねてくれる親戚・知人・友達と居室や和室で炬燵に入りながら、又利用者を交えてお茶を飲みながらゆっくり過ごして頂いている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の禁止は全員が周知しており、身体拘束をしないケアが実施出来ている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	単独外出への見守りは目配り・気配りの上、注意している。夕方に危険がないよう生活の流れを工夫、日中危険が生じる心配がある時のみ、短時間玄関内ドアにフックをかける。その際は表示を行い利用者の混乱を防ぎ、短時間に切り上げている。家族と相談しご理解頂いている。		
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一人一人のプライバシーに配慮しつつ、安全確認には注意をはらっている。夜勤者は居室が見渡せる場所で待機している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬剤は保管場所に、台所は利用者の出入りがあるので、包丁は台所を留守にする時は収納場所の収め、危険の無いよう注意している。利用者の状況に応じて注意の必要な物品については、家人とも相談した上で安全の対応を図っている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	地域、派出所へ事故防止のための協力を依頼。事故・ヒヤリハット報告を記録しグループ会議・ケア会議で、心身状況をアセスメントし、原因究明、再発防止策を話し合い、事故防止に取り組んでいる。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の救急救命講習を全員が受講、応急処置法については、看護師より実際の訓練を受けている。	○	緊急時の対応は学習の機会に実際の訓練も取り入れ定期的の実施していきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を行っている。消防計画を提示し、実際の避難訓練に地域の方に参加頂き利用者誘導をやっていただいた。夜間避難訓練では、緊急連絡網を使い、職員に応援要請」。実際に駆けつけられる時間を確認している。消火器の設置場所の確認を実施し、夜勤者一人で行う初期活動訓練を行っている。	○	地域と連携してた避難訓練を継続する。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている</p> <p>本人の状態・要望、家族の要望・職員の抱える危機感等、家族と話し合い、尊厳・安全の双方守れるよう常に対策を講じている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p> <p>毎朝バイタルのチェック、日常の心身状況は都度連絡し合い、朝夕の引継ぎでも確認し、早期対応につなげている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p> <p>服薬については、主に看護師が家族、医師と連携を取り、管理を行っている。服薬の説明・参考資料・状況を記録に残している。職員は看護師から説明を受け、飲み忘れや勘違いの無いようチェック管理している。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p> <p>入所後の様子を見ながら毎日のトイレ誘導や食べ易い食事の提供で食事量やバランスが整い良便が見られるようになってきている。野菜ジュース・牛乳等も勧めている。</p>	○	下剤の服用は排泄状況、便の性状に合わせ適切に利用できるように調節していく。
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p> <p>入所後は介護計画に取り入れて習慣化、口臭も消え、一人一人のパターンで清潔が保たれている。ポリデントも行っている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p> <p>1,400~1,500cal/日を目安に提供している。野菜が嫌いな人には飲み易い野菜ジュースを、お茶をあまり飲まない人にはスポーツ飲料や牛乳、ココア等甘い飲み物も取り入れ勧め、飲水量に注意している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78 感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	保健所の指導で感染症予防マニュアルを作成、予防研修会には必ず参加し、指導を受けながら看護師の指示のもと予防に努めている。		
79 食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所の衛生管理は保健所の指導を受け全員で周知徹底している。食材は毎日買出しに行き、鮮度には注意している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> (1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	隣に施設が開所以来、玄関前庭は、より広く開放感があり、草花も育て親しみ易い雰囲気になっている。表札も手作りで優しい雰囲気である。市のオープンガーデンに参加、特にバラの季節は見学者も多い。		
81 居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭と同じ造りになっており、全体に温かみを感じられ、照明の雰囲気も優しい。備品や装飾もアットホームで、家庭的な安心感がある。散歩の帰り道や庭の花をさり気なく飾り季節を感じている。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホームには随所に憩いの場を設けてあり、レク活動・気晴らし・昼寝など思い思いに使っている。炬燵は夏以外は置かれていて、とても落ち着ける場となっている。外のテラスにはテントが張っており、小雨や陽を除けながら活用できている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室内の家具類は本人の物を使っている。思い出の品々も置かれたり、また気晴らし外出先で手に入れた物や自分の作品を飾って、自分らしい雰囲気を作られて安心して過ごせる場所である。各居室の窓から見える景色は樹や花が四季の移り変わりを楽しませてくれる。</p>		
<p>84</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>冬は暖かく、夏は自然の涼しさで換気が十分行える構造になっており、冷暖房に頼り過ぎず住み心地のよいよう温度管理が行われている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>85</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下・トイレ・浴室には手すり、移動バーを設置している。心身状況と安全を考慮し畳スペースへの小階段は左右に手すりが設置してある。</p>		
<p>86</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>居室の印は親しみのあるもので迷わないよう支援している。トイレのドアには赤のラインを入れ、草花の写真を掛けて居室ドアと区別しやすくしている。</p>	○	<p>印は、利用者の状況に合わせて改善し、分かり易い工夫をしていきたい。</p>
<p>87</p> <p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>庭には花壇を作り、草取りや水くれを、畑作物の収穫は早朝や夕方の楽しみ事になっている。デッキには、猫の親子が住み、仲睦まじい親子のふれあいを優しく見守っている。</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 大いに増えている ○ 少しずつ増えている ○ あまり増えていない ○ 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ほぼ全ての職員が ○ 職員の2/3くらいが ○ 職員の1/3くらいが ○ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての利用者が ○ 利用者の2/3くらいが ○ 利用者の1/3くらいが ○ ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての家族等が ○ 家族等の2/3くらいが ○ 家族等の1/3くらいが ○ ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

南東に根子岳の全貌が見られ、りんご、ブドウ等の果樹園が周りに広がっています。季節の移ろいは、ホームのいたる所から感じられます。常に地域と共にあり、「地域の皆さんがあつてのオアシス」との思いが定着しています。今年は6年目を迎え、ご近所もすっかり周知の仲となっています。「散歩かい。」「気をつけてな!」「栗が採れたけどお年寄りに食べてもらってね。」等等声がかかります。庭に出て立ち話をしたり、猫とふれあつたりと思ひ思ひの生活があります。オアシスの庭はオープンガーデンとして開放され、バラを中心に様々な花が咲いて、地域の方々も気軽に訪れます。施設見学等も自由にしていただけるように心がけています。特に8月のサン祭りは地域の方々の楽しみになっています。地域の方が準備、運営、おでん作り、出演と、ボランティアで参加して頂いてます。地域・家族・スタッフと、総勢100人の皆さんとの輪踊りは、最高です!また、家族会(里の会)や七夕の時には、敬老を祝って家族と一緒に昼食をいただきます。家人には、利用者様の様子を見ていただきながら、家族と過ごす楽しいひと時となります。特に七夕の食事は、毎年手作りの笹寿司となっています。利用者様と一緒に笹を取りに行くところから、行事計画になっています。里の会では、高級料亭から仕出弁当を取ります。きれいな盛り付けに視覚、味覚ともに味わいます。家庭と同じように食事にも四季が感じられるように常に気を配っています。おはようございます。今日も一日宜しくね!今朝もスタッフの温かな、そして元気な声があふれます。心穏やかに、静かで、ゆったりとした時がホームには流れています。今を大切に、関わりの中でスタッフは教えられ、利用者様の言葉に励まされ、共に生きる喜びと感謝の気持ちを重ねる日々を過ごしています。